

胃カメラの検査方法について（経口・経鼻・鎮静剤）

当院では下の3種類の検査方法をお勧めしています。

A. 経口内視鏡

経口で用いる直径10mmの内視鏡スコープは画像解像度が高く、精密な検査ができます。（早期胃癌などの発見率がやや高くなると考えられます。）

鎮静薬無しでの検査が一般的で、検査当日に自動車・バイク・自転車などでの来院や休憩無しでの帰宅が可能です。但し、一定の割合で咽頭反射（えづき）を起こしやすい方がいらっしゃいますので、そのような方には経口内視鏡スコープに鎮静薬を併用した検査、もしくは経鼻内視鏡検査をお勧めします。



B. 経口内視鏡 + 鎮静薬

咽頭反射（えづき）を起こしやすい方にオススメです。

Aと同じ直径10mmの内視鏡スコープを用いるので画像解像度が高く、精密な検査ができます。また、鎮静薬を用いることによって、「えづき」を起こしやすい方でも苦痛が少なく検査を受けていただけます。

但し、ふらつきを取るために検査後1時間程ベッドで休んでいただきます。また、検査後当日は飲酒と同じ扱いで自動車・バイク・自転車などの運転が禁止（法的にも処罰対象）となりますので、来院は公共交通機関やご家族による送迎が必要です。万が一、運転して来院された場合は検査を延期していただくことがあります。



C. 経鼻内視鏡

咽頭反射（えづき）を起こしやすい方にオススメです。

直径 6mm の細い内視鏡スコープを鼻から挿入します。

①. 細いスコープを使用すること、②. 喉を通過するときの角度が直線に近くなるので喉の部分が押されにくくなること、により「えづき」が起きにくくなります。

基本的には鎮静剤を使わないので検査後すぐに帰宅可能です。

但し、鼻の奥が狭い方や変形している方では鼻の痛みや鼻血が出ること、スコープが通らないことがあります。直径 6mm の細い内視鏡スコープのままで口からの挿入に変更することがあります。（その場合、鎮静剤の希望があれば申し出てください。）

また、スコープが細い分、画像解像度がやや低くなりますので数年に一度は経口内視鏡スコープでの検査をお勧めします。（※初期の経鼻内視鏡スコープと比べると飛躍的に画像解像度は上がっています。）



その他 (D.)

特に咽頭反射（えづき）がひどい方について。

鎮静薬を用いた上で、直径 6mm の細い内視鏡スコープを鼻もしくは口から挿入します。

今までに胃カメラの際の「えづき」や苦痛が特にひどく、そのために検査が完遂できなかった、などの経験があるような方はこの方法を検討します。

予約の際に医師に御相談下さい。

検査後の安静、自動車・バイク・自転車などの運転禁止が必要です。

最後に.

胃癌は部位別がん死亡数で男性：2位、女性：3位と未だに死亡数が多いのが現状です。

当院は、胃癌の早期発見のためには検査の質の向上も当然ながら、個々人における胃癌リスクの評価と胃癌リスクに応じた定期的内視鏡検査の継続が重要と考えています。

胃カメラに苦手意識がある方は鎮静剤や経鼻用の細径スコープの使用などで苦痛を軽減し、検査を継続的に、気軽に受けて頂けたらと思います。

